

# 学校教育におけるJSLカリキュラム

日本語を母語としない子どものための学習支援  
(小学校編)

*Japanese as a second language* (第2言語としての日本語)

## 概要

### ねらい

日常的な会話はある程度できるが、学習活動への参加が難しい子どもたちに対し、学習活動に日本語で参加するための力(=「学ぶ力」)の育成を目指す。

### 特色

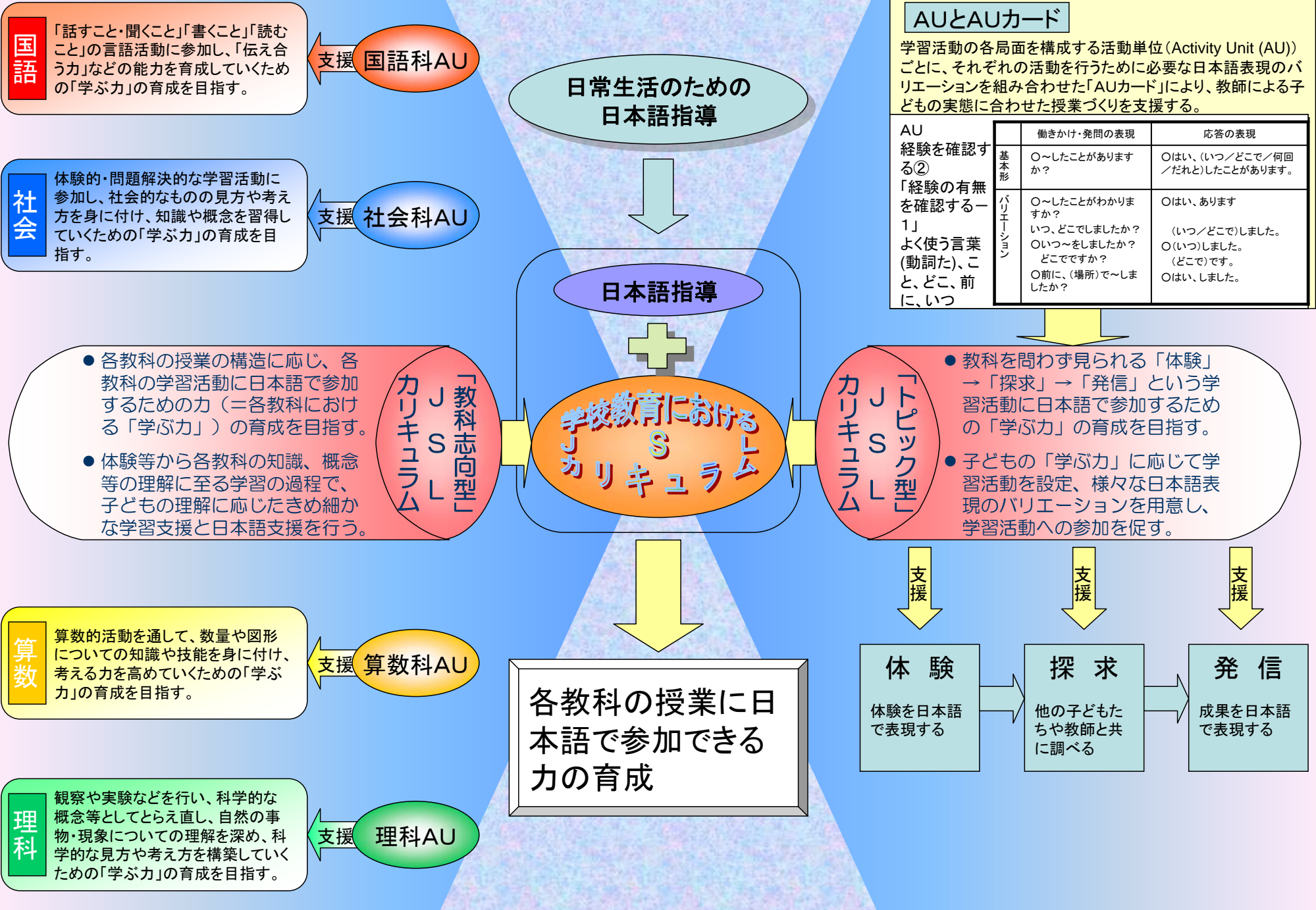
- 日本語指導と教科指導とを統合。
- 学習項目を固定した順序で配置するのではなく、生活背景、学習歴、日本語の力、発達段階などの多様な子どもたちの実態に応じて、教師自身が柔軟にカリキュラムを組み立てることを支援。
- 子どもたちの理解を促すよう、直接体験等に基づいた学習を重視。
- 子どもたちが理解しやすい日本語を使い、表現を工夫。

### 方法

- 直接体験などの活動への参加を通して、日本語による「学ぶ力」を育成。
- 子どもたちの「学ぶ力」に応じて参加可能な学習活動を設定し、活動に応じた様々な日本語表現のバリエーションを用意し、理解可能な日本語表現を工夫することにより、子どもたちの学習活動への参加とその理解を促進。
- 実践事例や教材、ワークシートなどに関する情報を共有するサポートシステムを構想し、授業に役立つ様々な工夫を支援。

# 学校教育におけるJSLカリキュラムの概要

(小学校編)



## AUとAUカード

学習活動の各局面を構成する活動単位 (Activity Unit (AU)) ごとに、それぞれの活動を行うために必要な日本語表現のバリエーションを組み合わせた「AUカード」により、教師による子どもの実態に合わせた授業づくりを支援する。

AU	働きかけ・発問の表現	応答の表現
経験を確認する②	基本形 ○～したことがありますか？	○はい、(いつ/どこで/何回/だれと)～したことがあります。
「経験の有無を確認する-1」 よく使う言葉 (動詞た)、こと、どこ、前に、いつ	バリエーション ○～したことがわかりますか？ いつ、どこでしたか？ ○いつ～をしましたか？ どこですか？ ○前に、(場所)で～しましたか？	○はい、あります (いつ/どこで)しました。 ○(いつ)しました。 (どこ)です。 ○はい、しました。

**国語**

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動に参加し、「伝え合う力」などの能力を育成していくための「学ぶ力」の育成を目指す。

支援 国語科AU

**社会**

体験的・問題解決的な学習活動に参加し、社会的なものの方や考え方を身に付け、知識や概念を習得していくための「学ぶ力」の育成を目指す。

支援 社会科AU

「教科志向型」  
JSL  
カリキュラム

- 各教科の授業の構造に応じ、各教科の学習活動に日本語で参加するための力 (=各教科における「学ぶ力」) の育成を目指す。
- 体験等から各教科の知識、概念等の理解に至る学習の過程で、子どもの理解に応じたきめ細かな学習支援と日本語支援を行う。

「トピック型」  
JSL  
カリキュラム

- 教科を問わず見られる「体験」→「探求」→「発信」という学習活動に日本語で参加するための「学ぶ力」の育成を目指す。
- 子どもの「学ぶ力」に応じて学習活動を設定、様々な日本語表現のバリエーションを用意し、学習活動への参加を促す。

**算数**

算数的活動を通して、数量や図形についての知識や技能を身に付け、考える力を高めていくための「学ぶ力」の育成を目指す。

支援 算数科AU

**理科**

観察や実験などを行い、科学的な概念等としてとらえ直し、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を構築していくための「学ぶ力」の育成を目指す。

支援 理科AU

各教科の授業に日本語で参加できる力の育成

